

牧 議 第 49 号
令和 4 年 8 月 10 日

牧之原市長 杉本 基久雄 様

第 3 次牧之原市総合計画に関する
特別委員会委員長 太田 佳晴



第 3 次牧之原市総合計画基本構想及び前期基本計画（案）意見書
の提出について

令和 4 年 9 月牧之原市議会定例会に上程される議案「第 3 次牧之原市総合計画基本構想」に先立ち、本委員会では、第 3 次牧之原市総合計画基本構想及び前期基本計画（案）について協議を重ねてきましたが、別紙のとおり意見をまとめましたので、ここに提出いたします。

当局におかれましては、意見に対する回答を委員会へ提出されるようお願いいたします。



第3次 牧之原市総合計画 基本構想（案）意見書

1 目的 【P1】

若者の減少が大きな課題としている中で「強みを活かして、住む魅力の向上に重点を置き取り組む計画」としたいのであれば、サーフスタジアム周辺をリゾート地として環境を整えることで、幅広い年齢層にも魅力を感じてもらえることから、ターゲットを若者に限定するのではなく広く考えるべき。

4 まちづくりの理念（将来都市像） 【P2】

シティプロモーションと連動しているために、文章の内容は変える必要はないが、「夢に乗る」まちである躍動感を感じさせる印象的なデザインの紙面としたい。

6 実現に向けた基本的な考え方・姿勢 【P2】

(1) まちづくりの基本的な考え方 【P2～4】

①安心安全な暮らしの確保

原子力発電の危険性と安全性について何らかの記述が必要と考える。

沿岸部についての安心安全の確保については、地震津波災害の側面から示されているが、今年の竜巻被害に見られるように、いつどこで大きな自然災害が起こるか予想困難な時代となっている。よって、山間部を含めた市内全域の安心安全に配慮した文章にすべき。

8行目の「新たな選択肢の供給」について、供給は一般的には物に対して使う表現で、新たな選択肢を物に置き換えるか、供給を「提供」に変更すべき。

②公民連携・市民協働

DX導入を積極的に進めることを明記することが必要と考える。

市民協働をうたっているが、具体的な人材育成（新たな人材発掘）に関する言葉が見当たらない。

「取組を進めるカギは、プレイヤーとなる人材です。」の中に、「対話の文化を継承していく人材育成を継続的に行っていく」のような文章を入れるべきと考える。

「稼ぐノウハウに長けた」の文章について、結果として稼いでもらえばよいが、民間活力導入の本質は、魅力的な新しい発想を取り入れていくことにあるはずなので、「経営能力に長けた」に変えるべき。

3番目の・は、1番目の・に続く内容のように感じるので、2番、3番の・を入れ替えた方が全体の文章がまとまるのではないか。

「協働のまちづくりで培われた市民力があるため」の文章は、「…培われた市民力があり」の方が適切と考える。

④SDGsの推進・循環型の社会経済への転換

ゼロカーボンシティの全体的な取り組みと、年次具体的目標数値への言及がない。

(2) 土地・空間利用の基本的な考え方 【P4～5】

①既存市街地と高台をつなぐ都市構造の構築

「富士山型ネットワーク構造」は、必ず実現させるという決意を示すために、「…転換を進めます。」の表現を、「強く押し進める。」などの表現とする必要がある。

②各地域特性に応じた土地利用の促進

1行目「3つの特色を考慮するとともに」、3行目「利用者ニーズなどを考慮」とあるが、具体的に何をどのように考慮するのか、疑問を感じてしまう。「考慮」という曖昧な表現から、「活かす」等に変更する。

7 重点方針 【P5】

(1) 牧之原市らしい暮らしや遊びのR-カスタイルを創出する 【P5～6】

「交通利便性と安全性に優れた高台地域と、…」の文章は、他の地域の安全性に疑問を感じさせる表現なので、「安全性」という言葉を削除するか他の表現を用いるべき。

(3) 若者世代が住みやすい暮らしを創出する 【P6】

牧之原市の最大の課題は「若者の減少」と捉えているのであれば、より強い姿勢を示すべきと考える。

全体に対する意見

農業に関する記載が見えないが、「まちづくりの基本的考え方」又は「土地・空間利用の基本的な考え方」の中に入れ込むべき。また、市の基幹産業であるお茶については、当市における今後の位置づけや考え方を明確に示す必要がある。

市民、また職員が共有しやすい総合計画とし、そして何を目標として、どのようなことを実施するのかを明確に示すべきものとする。

文字の字体だけでなくイラスト等も効果的に使うことで、市民に伝わりやすい構成とする。

目的で若者の減少に関する記述を追加しているので、次世代を担っていく若者が魅力を感じる基本構想とすべき。

今後、さらなる高齢化社会を迎えるにあたり、特に高齢者福祉、また福祉全般に関する考え方が十分に示されていない。

第3次 牧之原市総合計画 前期基本計画（案）意見書

政策1 防災 施策1 危機管理機能の充実 【P4】

2方向性（1）自助、共助の体制の強化

「防災は一人ひとりが主人公」

総合計画（案）の中で、「一人一人」と「一人ひとり」両方の表記が使われているが意味はあるのか、出来れば統一した方がよい。

局地的大雨等災害の激甚化について、現状と課題では記述されているが、方向性の中には災害時の伝達についての記述のみで、具体的な対策について述べられていない。「海岸防潮堤の整備」と同じように「内陸部の災害」対策についても、具体的に示すべきと考える。

政策1 防災 施策2 消防体制の充実 【P5】

災害対応時に備えた、消防団員の安全確保に関する指導・教育について示すべきと考える。

政策2 健康福祉 施策6 地域医療の充実 【P12】

榛原総合病院と開業医の連携について、かつては榛原総合病院の医師が地域で開業して地域医療が機能してきたことを考えると、榛原総合病院と開業医との信頼関係の構築は地域医療にとってたいへん重要であり、「連絡調整体制を確保する」から、もう少し踏み込んだ「連携」についての考え方を示すべきと考える。

政策3 教育文化 施策1 次代を切り拓く力の育成 【P13】

現状と課題 10行目の、「学校再編を進めるに当り、…」

「あたり」は漢字で表記すると、「当り」で間違っていないが、一般的には「あたり」で表記するようである。「当り」、「当たり」、「あたり」が使われているが、表記の統一が必要。

政策4 産業経済 施策1 農業・水産業の振興 【P16】

方向性（1）の「JA等の関係機関」は、「JA、他民間企業等」が妥当と考える。

今後、市の重要な取り組みである「オーガニック」という言葉を、文中に入

れる必要があると考える。

政策5 都市基盤 施策2 道路や河川の保全と整備 【P21】

2 方向性(2) 市道・都市計画道路の整備

「・すでに計画されている都市計画道路の妥当性や必要性を検証し、見直しを進めます。」を項目追加すべきと考える。

政策5 都市基盤 施策3 人が集まる公園・緑地 【P22】

2 方向性(2) 遊具や芝生広場などの機能充実

「・新たな遊具が充実した、雨天でも使用できる室内施設も完備した広い公園づくりを進めます。」を項目追加すべきと考える。

政策5 都市基盤 施策4 安定した上水道の供給 【P23】

1 現状と課題

4つ目の・「上水道を購入して…」は、「上水道を受水して…」が正しい表現と考える。

2 方向性

(3)「大井川広域水道企業団からの購入水量や…」は、「大井川広域水道企業団からの受水量や…」が正しい表現と考える。

政策6 生活環境 施策1 住民自治の支援 【P24】

2 方向性(2) 地区支援の推進

絆づくり事業の部分では、地域住民だけではなく市の職員も、この絆づくり事業に積極的に関わることを促す文章とした方がよい。

2つ目の・「支援する」の前に「積極的に」を入れるべき。

政策7 市政経営 施策1 市民の期待に応える組織づくり【P28】にも関連する。

2 方向性(3) まちづくりを支える人材育成

高校生は進学や就職により、市外に出ていく人が多いので、高校生だけでは表現的に非常に弱い。将来の地域の担い手を高校生に限定するのではなく、20代～30代の若者を対象にしていくべきと考え「将来の地域の担い手となる高校生を対象とした地域リーダーの育成…」を「将来の地域の担い手となる若いリーダーの育成…」にすべき。

全体に対する意見

牧之原市が、最も重要な課題として捉えている「若者の減少」について、より具体的な政策に結びつけるための内容を、さらに入れ込む必要がある。

